

流域が一丸となって「四万十川一斉清掃」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、7月25日「四万十川の日」に行われました四万十川一斉清掃について報告します。

四万十川流域の8市町村では、「日本最後の清流」と言われる四万十川を保全し、後世に残していくために、毎年各地域で四万十川の清掃を実施しています。

7月25日は、平成6年のこの日に「渡川」から「四万十川」に正式に名称変更されたことを記念して「四万十川の日」と高知県では制定しており、ちょうど日曜日となった今年は、上流から下流まで一斉に清掃を行いました。

当日は、全流域で約7,000人の住民やボランティアの方々が参加されました。上流域の窪川町・大井野河原では、早朝から100人を超える方々が集まり、前田窪川町長の「河川環境保全の輪を広げて、清らかな清流を次世代につなげましょう」との挨拶の後、清掃を始めました。長年参加されている方によると、保全意識の高まりからか、以前より捨てられるゴミの量は減っているとのことですが、キャンプ後のバーベキューの残飯や花火の燃えカスなどが多く、中には粗大ゴミも捨てられており、ボランティアの方々がっかりしていました。

下流域の中村市では歌手の白井貴子さんが、その他の町村でも県内外から遊びに来られていた観光客の方々が清掃に参加され、四万十川の環境保全に大いに貢献してくださいました。南国市から参加した小学生は「毎年、四万十川には来ています。清掃は初めてだけど、これからは川で楽しんだ後は、川に感謝してチリを落とさないようにします」と話してくれました。

四万十川の美しい清流を守る基本は、一人一人の自覚と行動です。これからも、四万十川の一斉清掃を続け、この想いが広く定着するように呼びかけていきたいと思えます。

●お問い合わせ (財)四万十川財団 TEL0880-29-0200



▲窪川町・大井野河原に集まったボランティア



▲大野見村・川の中での清掃作業



▲キャンプで楽しんでいた家族も参加



▲中村市・収集したごみはトラックへ

Topics

「雲の上でいただきます」

四万十川上流域・梶原町の伝統食を後世に伝えていこうと、町がレシピ集「雲の上でいただきます」を発行(B5版、144ページ)。地元の女性たちが編さん委員となり、山菜料理を中心に約80種の調理法を掲載、こんにゃくなどの作り方や木の弁当箱など、山里の食文化や昔ながらの道具をカラー写真入りで紹介しています。町民の方には一部500円、町外の方には1,500円で販売しています。

●お問い合わせ/梶原町保健福祉支援センター TEL 0889-65-1170